

平成28年度石川県立九谷焼技術研修所運営委員会次第

日 時 平成28年11月8日(火)
午後1時30分より
場 所 九谷焼技術研修所
1階 会議室

1. 開 会
2. あいさつ
3. 報告事項
 - (1) 研修の状況について
 - (2) 平成28年度事業の実施状況について
 - (3) 平成29年度事業(案)について
4. 意見交換
 - ・ 魅力あるカリキュラム
 - ・ 研修生の確保
 - ・ デザイン力の向上
 - ・ 就職支援
 - ・ 施設運営の効率化 など
5. 閉 会

九谷焼技術研修所運営委員会委員名簿

(敬称略)

氏 名	役 職 名 等
吉 田 美 統	(公財) 九谷焼振興協会理事長 九谷焼技術保存会会長
久 世 建 二	金沢美術工芸大学名誉教授 陶芸家
大 場 久 子	ギャラリークラフトAオーナー
坂 井 さゆり	(株)塗装館エス・エス代表取締役専務
新 滝 淳 子	(有)ゆのくにの森代表取締役
長谷川 紀 代	陶芸家
吉 田 正 一	石川県九谷陶磁器商工業協同組合連合会理事長
荒 川 隆 男	(公財)石川県デザインセンター専務理事
田 中 玉 美	能美市婦人団体協議会会長
和 田 慎 司	小松市長 (H21.4.13~)
井 出 敏 朗	能美市長 (H29.2.27~)
二 木 裕 子	小松市立博物館長 (本陣記念美術館、錦窯展示館 市民ギャラリー「リフレ」各館長兼務)

任期 平成29年9月23日まで

12 名中 9 名出席 2 名代理 1 名欠席

1. 吉田会長あいさつ

2. 所長あいさつ

- ・強風による茶碗まつりの中止と秋の茶碗まつりの開催について
- ・研修生の挨拶敢行について

3. 報告事項

(1) 研修の状況について

藤原課長より説明

進路について

入学状況について

カリキュラム

本科 1 年

- ・造形力の向上
- ・技術センターとの連携（無鉛絵具の使用について）

本科 2 年

- ・一貫制作を基本とした課題
- ・業界講座

研究科

- ・生活工芸 金沢での展示販売(クラフト A) H8～実施、今年で 21 回目
- ・企業研修

実習科

- ・二年間ですべての技法を履修

(2) 平成 27 年度事業の実施状況

九谷焼技術研修所

藤原課長より説明

- ・デザイン支援 16 名参加、山村真一先生、中村卓夫先生
- ・公開講座「補助金どれをえらばいいの？」（アンケートをもとに実施）
- ・オープンキャンパス
- ・能美市との共同での研修所卒業生を対象にしたアンケート調査
- ・千支皿コンペティションの実施

九谷焼技術者自立支援工房

中村副館長より説明

- ・昨年度比での利用料の減少、要因は利用料金の高い設備の利用者減少が考えられる。
- ・見学者二割増、要因は知名度の浸透
- ・ギャラリー彩での企画展の実施

九谷焼技術センター

笠森センター長より説明

- ・継続研究（県内産原料を用いた釉薬開発、耐久性の強い（食洗機対応）無鉛絵具の開発研究）

- ・新規研究（鋳込み用白色坯土開発、安定仕入できる原料を用いた上絵の具研究開発、新花坂陶石の調査研究

(3) 平成 29 年度事業(案)について
藤原課長より説明

4. 報告事案についての意見

「カリキュラムについて」

久世委員 九谷焼に限定せず、やきものの歴史を学ぶカリキュラムは重要。陶芸史等の講義はもちろんだが、実際の品物を見ることも重要な学びである。研修所所蔵のコレクションは教材としても貴重。収集予算を要求すべきでないか。

松島所長 貴重な意見。

吉田委員 業界では職人の高齢化が喫急の課題。職人として活動する人材を求めている。

業界の受け入れ態勢も課題ではあるが、量をこなす内容等、実践的な授業をしてほしい。

藤原課長 現段階でも、業界講座などの業界の方の話を聞く講座や、量をこなす練習等の授業を実施している。今後も意見交換していきたい。

「干支皿コンペについて」

荒川委員 良い支援制度なのに応募数が 10 名とは少ない。個室工房OBだけでなく広く卒業生まで応募枠を広げてはどうか。

藤原課長 応募数が減少しているのは課題。検討する。

「共同工房について」

吉田委員 窯の予約が埋まっていてなかなか予約が取れないと聞く。プロが利用しているのでは、との声も聞くが。

中村副館長 1 立米の窯はプロが利用することもあるが、利用者は少ない。0.5 立米の窯は確かにフル稼働で予約は取りづらい状況だが、利用者は研修所卒業生が主。利用者のスケジュールでどうしても、という場合は技術センターの利用を紹介している。